

東京駅前、ミシュラン掲載のsmallラグジュアリーホテル「ホテル龍名館東京」

2020年を前に3割の客室を大改装、1億円を投資し、競争力高める
「東京駅から最も近いモダン旅館」の新スタイルを提案、6/4オープン
「ホテル」と「旅館」が融合した宿泊施設へ、「オフィス・ルーム」なるビジネス部屋も

プレス向け新ルーム発表会&試泊会 開催

- ◇発表会 / 6月3日(月) 13:00～、17:00～の2部制
- ◇試泊会 / 6月4日(火)～10日(月)の7日間、和朝食のビュッフェ付き

ホテル、レストラン運営の老舗、創業120年の(株)龍名館(東京都千代田区、浜田敏男社長、資本金5千万円)は、2009年開業の東京駅前のミシュラン掲載ホテル「ホテル龍名館東京」(中央区八重洲1、客室135部屋)の客室の約3割を大改装し、「東京駅から最も近いモダン旅館」をコンセプトにした、新しいデザインルームを打ち出します。

改装する客室数は38室で、2019年6月4日(火)からオープンします。客室タイプは全てダブルルームで、宿泊料金は1泊1室税込27000円～です。

改装にかかる投資額は約1億円で、客室デザインのほか、家具や寝具、装飾品などを刷新します。斬新なコンセプトの部屋を打ち出すことで顧客満足度を高めるとともに、改装後の客室単価を最大42%引き上げて、売上増を狙います。

新ルームでは、靴を脱ぎ、足を伸ばしてゆったりできる畳敷きのスペースや、高床の小上がりにちゃぶ台を置いたリビング風の部屋を設けるなどします。キャビネットや、ホワイトボード、大きなソファを設置する「オフィス・ルーム」という新機軸の客室も初展開します。



つきましては改装を前に、6月3日(月)13:00～、17:00～の二部制で、報道各位向けの発表会を開催します。また翌日6月4日(火)から、10日(月)までの計7日間、プレス試泊会を行ないます。試泊では、「日本一の朝食シェフ」が監修する、自慢の本格和食の朝食ビュッフェもお楽しみいただきます。試泊は客室に限りがありますこと、予約は宿泊前日の15時までとさせていただきますこと、予めご了承くださいませ。本資料巻末用紙をご覧いただき、事前にご連絡をいただけますと幸いです。

発表会	東京都中央区八重洲 1-3-22 ホテル龍名館東京(最寄り駅:東京駅・日本橋駅) 15階
	【第一部】6/3(月)13:00～ 【第二部】6/3(月)17:00～ ※報道受付は各回開始30分前～
	<事業説明> 13:00～ / 会場: ホテル15階「花ごよみ東京」 (登壇) 代表取締役社長 浜田敏男 / 専務取締役 濱田裕章 / プロジェクトマネージャー 栗原雅美
	<客室内覧> 13:30～ / 新ルームの内覧
試泊会	6/4(火)～6/10(月) 計7日間のうちの1泊2日朝食付き
	チェックイン14:00 チェックアウト11:00 / 「花ごよみ東京」にてビュッフェスタイルの和朝食付き

稼働率 90%も、2020 年に向け既存ホテルの集客強化、都内ホテルラッシュに対策

「ホテル龍名館東京」の直近の稼働率は 90% (海外宿泊者率 52%) と高い水準を維持しており、2018 年度 (4 月-3 月) の売り上げは 9 億円を超え、9 年度連続で過去最高を更新しています。

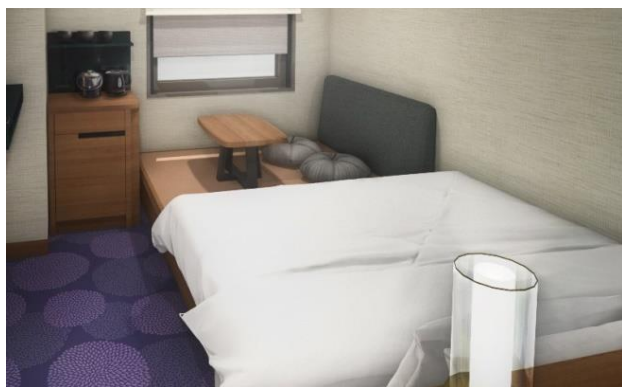
当社は先日 (2018 年 12 月)、新橋・虎ノ門エリアに、お茶をテーマにしたブティックホテル (客室 63 部屋) を新規出店するなど、積極的に事業を展開しています。2020 年に向けてホテルラッシュが続く東京で、既存ホテルは、競争力をさらに高める必要があります。「ホテル龍名館東京」では、改装ルームの客室単価を最大 42% 引き上げ、顧客満足と業績の向上を狙います。

畳、ちゃぶ台、菊柄、茄子紺色…旅情誘う部屋づくり

改装する 38 室のうち 33 室を、「東京駅から最も近いモダン旅館」をコンセプトに掲げた、デザインルームにします。

靴を脱ぎ、足を伸ばしてゆったりできる畳敷きのスペースや、高床の小上がりにちゃぶ台を置いたりリビング風の部屋を設けるなどしながら、当社、龍名館の源流である旅館の要素を、巧みに取り入れます。床には、菊の花をモチーフにした、日本の伝統色で重厚感のある「茄子紺色 (なすこんいろ)」のカーペットを敷くとともに、一輪挿しや、ちょっとした盆栽のイミテーションを置きながら、空間全体で和の旅情を誘います。けん玉や万華鏡など日本の玩具を客室に置いているのも特徴で、日本文化にほっこりしていただきます。

客室タイプは「TATAMI ROOM」(28 室、19.7 平米) と「JAPANESE MODERN」(5 室、27 平米) の 2 つで、いずれも和洋室をイメージしています。



【TATAMI ROOM】ベッド台が部屋の奥まで続き、足を伸ばしてくつろげる畳スペースに



日本の伝統色「茄子紺色」のカーペットには、「菊の花」をモチーフにあしらひ、シックな雰囲気に

キャビネやホワイトボード、ゆったりしたソファ…ビジネス利用向けの新ルームも

改装する 38 室のうち 5 室は、ビジネス利用を想定した、「オフィス・ルーム」という新機軸の客室を、導入します。

「TOKYO SOHO」(5 室、22.8 平米) の名称にした洋室で、機能的なコーナーキャビネットや大きなソファ、ホワイトボードを各部屋に用意します。ラウンジのような広いリビングコーナーを設けるので、ゆったりとした空間の中で、仕事に向き合えます。客室名の「SOHO」(= 自宅オフィス) のように、お使いいただけます。



高級マットレスと枕で睡眠をサポート、“全身エステ”ができるシャワーヘッドも

改装する全38室は、睡眠環境にもこだわります。ベッドのマットレスは、老舗寝具メーカー「西川」の最上級モデル「エアースX」を採用。多くのアスリートも愛用している最高品質のマットレスで、柔軟性と硬度を備えた特殊構造により、寝る姿勢を自然なままキープする点が特長です。枕も同社の「エアース4D」で、立体的なフィット感と温度調節機能で、より深い眠りへと導きます。

バスルームには、エステ気分で疲れを癒していただく、シャワーヘッド「nude(ヌード)」(製造: if_isolafelice)を完備。水の出る穴が0.4mmと極細で、泡と勘違いするほど、柔らかい水圧なのが特徴です。髪やお肌へのストレスを軽減しつつ、マイクロ・ナノバブルの高い洗浄作用で、汚れをしっかりと落としてくれます。お肌を健康な状態に導く、嬉しいアイテムです。

「入浴後」「就寝前」「起床後」にあわせてブレンドしたオリジナル日本茶を客室に用意

38室全て、龍名館オリジナルのブレンド茶を用意します。「日本茶インストラクター」の資格を有する当社のスタッフがブレンドした、ここでしか味わえない日本茶です。

シャワー後にオススメの「保温」、お休み前にも飲める、低カフェインの「リラックス」、目覚めの一杯にぴったりの「覚醒」の3つのテーマに沿った日本茶、合計3種を各客室にセットします。

新しく導入する客室について

オープン	2019年6月4日(火)	部屋数	38室
部屋価格 (税込)	<1> FORUS A -TATAMI ROOM-	19.74平米:28部屋	1泊27,000円
	<2> FORUS B -TOKYO SOHO-	22.84平米:5部屋	1泊32,000円
	<3> FORUS C -JAPANESE MODERN-	26.99平米:5部屋	1泊37,000円
部屋特長	<1> 靴を脱いで過ごす和洋室。部屋奥を畳風の高床にして、「縁側」を演出。足を伸ばしてくつろげます <2> 機能的なコーナーキャビネット、大きなソファ、ホワイトボード、ラウンジのような広いリビングコーナーが特長。「SOHO」(=自宅オフィス)の通り、ビジネス利用に特化した部屋です <3> 部屋奥を畳の高床にして、ちゃぶ台と低めのソファを置く、広いお部屋です。高級旅館にいたような、ゆったりとしたお時間を過ごせます		
デザイン	IDEAL design & products	投資額	約1億円
ブランド	「FORUS」(フォーラス)は、改装前からの客室のブランド名で、「For 明日(=明日のために)」の意味を持っています。「明日を輝かせる場所」をコンセプトに、旅の疲れを癒し、しっかりと休息と睡眠をとり、翌日を輝かせるような客室を目指しています。		

(ご参考) 激化する“ホテル戦争”の中、9期連続で売上過去最高を更新

「ホテル龍名館東京」の足元の業績は好調です。2018年度(4月-3月)の売り上げは9億円(前年比約104%)を超え、9年度連続で過去最高の売上高を更新し続けています。また、2018年度の宿泊稼働率は約90%で、海外宿泊客(人数)比率は約52.8%(前年比+1.7%)まで高まっています。宿泊者のうちビジネス利用(人数)は約34.9%です。

そんな中、2020年に向け激化する“ホテル戦争”において、独自の路線を築くべく、今回の改装に踏み切りました。

ミシュランガイド 8年連続掲載&トリップアドバイザーで好評価 東京駅前のスモールラグジュアリーホテル「ホテル龍名館東京」について

2009年開業の「ホテル龍名館東京」(八重洲)の元々は、1899年(明治32年)開業で、現在も営業中の「ホテル龍名館お茶の水本店(旧旅館龍名館本店)」(神田駿河台)の分店として開業した、「旅館呉服橋龍名館」(1963年「ホテル八重洲龍名館」に改称)です。

源流である「旅館龍名館本店」は開業以来、画家や作家、芸術家など文化人に愛され、日本画家では川村曼舟や伊東深水らが泊まったこともある伝統ある旅館です。

作家の幸田露伴の次女である幸田文が、小説「流れる」で、帝国ホテルと並び在京の名店に挙げたほか、宿泊いただいた画家が宿泊代の代わりに自身の絵を置くなどのエピソードが残る老舗です。

その文化を汲む「ホテル龍名館東京」は、世界主要都市の高級ホテルのデザインを多数手がけるデザイナー、ジョー・リベラ氏による内装と、和・洋が融合した気品のある優美なしつらえが特長です。

男性イメージのビジネスホテルとは一線を画すスモールラグジュアリーホテルとして、お客様に定着しています。また、東京駅前徒歩3分という好立地で、ビジネスはもとより旅行の拠点としても多くご利用いただいています。

これまでにミシュランガイドで8年連続(2012～2019年)で二ツ星(パビリオン)を獲得しているほか、日経トレンディ「2012年ホテルランキング」のビジネスクラス部類で全国1位となるなど、高い評価を得ています。また世界最大の旅行口コミサイト「TripAdvisor(トリップアドバイザー)」では、2011年度より8年連続のエクセレンス認証を受賞し、殿堂入りするなど、外国人観光客にも人気を集めています。

本格和食楽しめる朝食ビュッフェ、“日本一の朝食シェフ”がメニュー監修

ホテル15階の和食店「花ごよみ東京」では、月替わりの“手作り本格和食”と30種のベジタブル料理を楽しめる朝食ビュッフェ「東京ブッフェ」(税込2500円)が、大変ご好評いただいています。ご宿泊客はもちろん、一般のお客様もご利用いただけます。平日は朝7時から10時まで、土日祝日のホリデーランチでは7時から14時まで営業しています。



創業120年、会席料理屋として培った伝統を受け継ぐ本格的な日本料理約15種が並ぶほか、希少性の高い江戸東京野菜を含む40種の野菜を、サラダやしゃぶしゃぶなどで召し上がっていただけます。体に優しい贅沢な和食のビュッフェで、朝から元気をチャージできます。

各メニューは、“日本一の朝食シェフ”^{*}と称される矢吹淳男シェフに監修をお願いしています。

※群馬県「源泉湯の宿 松乃井」の農家レストラン「野喰禅料理かしきや」のシェフ・矢吹淳男氏は、料理長を務めた「銀座コムズホテル」の朝食ビュッフェで、JTB朝食アンケートで全国1位を獲得する等で、「日本一の朝食シェフ」と称されています

施設名	ホテル龍名館東京	開業日	2009年6月1日
住所	東京都中央区八重洲 1-3-22	交通	JR東京駅八重洲北口から徒歩3分
客室	シングルルーム、ツインルーム、スイート等12種類の客室をご用意		
施設	客室135室、レストラン2軒	宿泊料金	20,000円～
電話	03-3271-0971	HP	https://www.ryumeikan-tokyo.jp/

